



沖縄県宮古諸島から得られた魚類 10 種の記録

永井亮羽¹・高橋麟太郎¹・木部琥太郎¹・今田明生¹・吉本亘成¹・小田英次郎²・尾山大知^{3,4,5}

Author & Article Info

¹ 麻布学園生物部 (東京)

RN: ryongi0019@gmail.com (corresponding author)

² 早稲田大学先進理工学部応用化学科 (東京)

³ 東京大学法学部 (東京)

⁴ 神奈川県立生命の星・地球博物館 (小田原市)

⁵ 千葉県立中央博物館 (千葉市)

Received 13 April 2026

Revised 18 April 2026

Accepted 19 April 2026

Published 20 April 2026

DOI 10.34583/ichthy.66.0_37

Ryo Nagai, Rintaro Takahashi, Kotaro Kibe, Akio Konta, Kosei Yoshimoto, Eijiro Oda and Daichi Oyama. 2026. Records of 10 fish species collected from the Miyako Islands, Okinawa Prefecture, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 66: 37–46.

Abstract

In September 2025, 10 fish species, *Ambassis buruensis* Bleeker, 1856, *Ambassis interrupta* Bleeker, 1853, and *Ambassis miops* Günther, 1871 (Ambassidae), *Epibulus insidiator* (Pallas, 1770) (Labridae), *Amblygobius esakiae* (Herre, 1939), *Amblygobius* sp. A sensu Suzuki et al. (2004), *Favonigobius* sp. A sensu Momose (2024), *Mangarinus waterousi* (Herre, 1943), *Trypauchenopsis limicola* (Smith, 1964), and Gobiidae, indet. gen. and sp. 10 sensu Suzuki (2004) (Gobiidae) were collected from coastal and inland waters of the Miyako Islands (Okinawa Prefecture), southern Ryukyu Archipelago, southwestern Japan. Among them, *Amba. buruensis*, *Amba. interrupta*, *Ambl. esakiae*, *F. sp. A*, and *M. waterousi* were newly recorded from the Miyako Islands. In addition, specimens of *Amba. miops*, *E. insidiator*, and *T. limicola* represent the first specimen-based records from the islands. Moreover, *Ambl. sp. A* from Shimoji Island and Gobiidae, indet. gen. and sp. 10 from Irabu Island represent the first records from the respective island. A detailed description of *Ambl. esakiae* from Shimoji Island, representing the second Japanese specimen-based record, is also provided herein.

宮古諸島は琉球列島南部の八重山諸島と沖縄諸島の間位置し、宮古島を中心として、伊良部島、下地島、来間島、池間島、大神島、多良間島、および水納島の計8島からなる島嶼群である。宮古諸島の魚類相について、Senou et al. (2006: tables 1, 2) は神奈川県立生命の星・地球

博物館の魚類写真資料データベース (KPM-NR) の登録資料に基づき、同諸島に17目75科792種の魚類が出現するとした。その後、Senou et al. (2007) が同諸島の沿岸性魚類目録を作成し、17目82科863種を報告したが、同目録は主にダイバーが撮影した水中写真に基づくものであり、陸水域や潮間帯から潮下帯にかけて生息する種については網羅されていない。さらに、立原 (2019a, 2020a) は同諸島の海域において3回の魚類相調査を行い、確認された10目46科179属435種の目録を報告した。また、これらの他にもマングローブ域や河川の魚類相に関する目録的な報告 (立原ほか, 2002; Tachihara et al., 2003; 北村, 2009; 立原, 2019b, 2020b) があるものの、依然として同諸島の魚類相の全貌を把握するには至っていない。

2025年9月、宮古諸島の沿岸域ならびに陸水域からヒメタカサゴイシモチ *Ambassis buruensis* Bleeker, 1856, ナンヨウタカサゴイシモチ *Ambassis interrupta* Bleeker, 1853, セスジタカサゴイシモチ *Ambassis miops* Günther, 1871, ギチベラ *Epibulus insidiator* (Pallas, 1770), エサキササハゼ *Amblygobius esakiae* (Herre, 1939), ホホベニサラサハゼ *Amblygobius* sp. A sensu Suzuki et al. (2004), ヒメハゼ属の一種 *Favonigobius* sp. A sensu Momose (2024), ウチワハゼ *Mangarinus waterousi* (Herre, 1943), ホシドメヒゲワラスボ *Trypauchenopsis limicola* (Smith, 1964), およびハゼ科の一種10 Gobiidae, indet. gen. and sp. 10 sensu Suzuki (2004) の10種の魚類が採集された。これらはいずれも宮古諸島または各島からの初記録もしくは標本に基づく確かな記録となるので、同諸島の魚類相に関する基礎的知見の蓄積に寄与することを目的として報告する。

材料と方法

採集調査は2025年9月1日から5日にかけて、宮古諸島の宮古島、伊良部島、および下地島において、著者らのうち2–4名が手網(間口36 cm, 目合3 mm)を用いて行った。標本作製方法は概ね本村 (2009) に準拠したが、麻酔には2-フェノキシエタノールを用いた。標本の観察は双眼

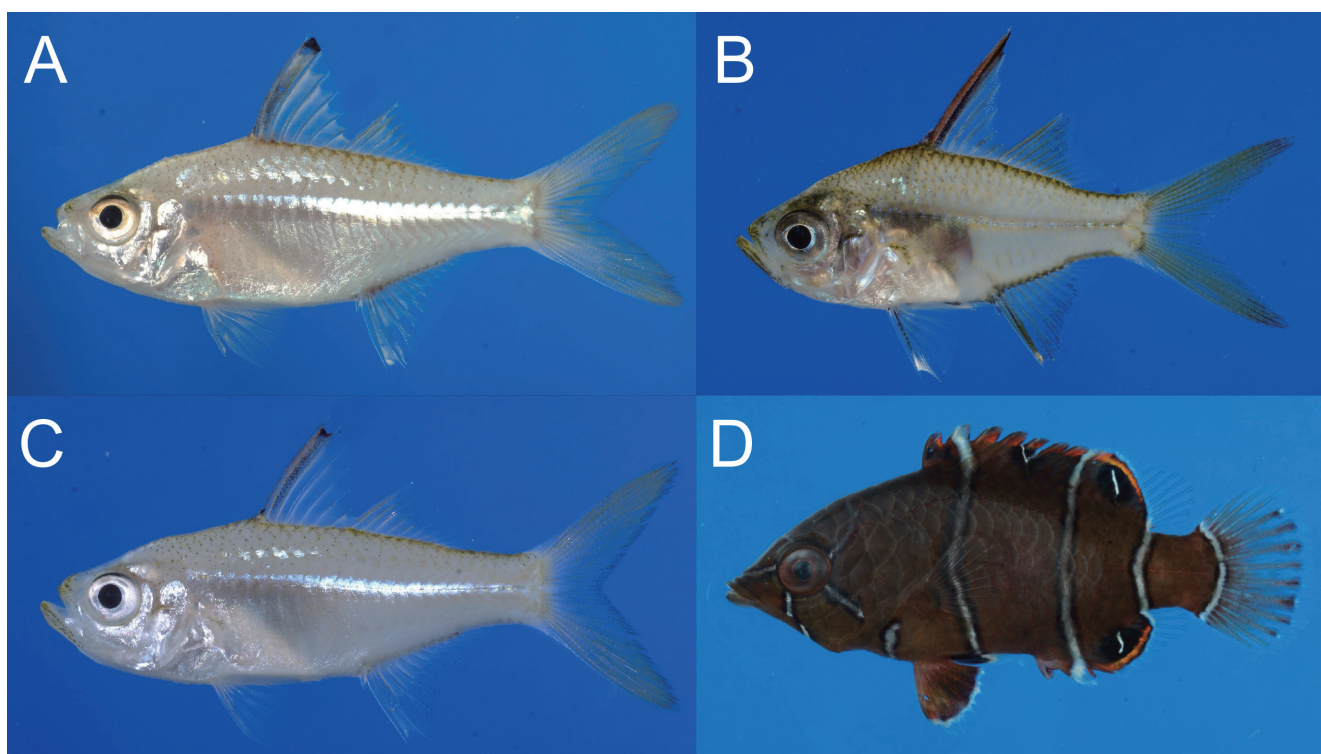


Fig. 1. Fishes collected from the Miyako Islands, immediately after fixation. A: *Ambassis buruensis*, ZUMT 72119, 51.7 mm SL; B: *Ambassis interrupta*, ZUMT 72105, 20.9 mm SL; C: *Ambassis miops*, ZUMT 72120, 33.0 mm SL; D: *Epibulus insidiator*, ZUMT 72101, 22.7 mm SL.

実体顕微鏡下で行い、必要に応じてサイアニンプールによる一時染色を施した。標本の計測はデジタルノギスを用いて0.1 mmの精度で行った。鰓耙は右体側の鰓弓を摘出したのちアリザリンレッドで染色して観察した。タカサゴイシモチ属魚類の計数・計測方法はHubbs and Lagler (1947), Allen and Burgess (1990), および吉郷 (2024) にしたがって、頭部膜骨における骨質隆起縁部位の名称は吉郷 (2024) に準拠した。エサキサササハゼの計数・計測方法は渋川ほか (2011) に準拠し、内骨格の観察は軟X線写真〔神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類写真データベース (KPM-NR) にKPM-NR 292002Eとして登録〕に基づく。標準体長 (standard length) は体長またはSLと略記した。本稿における種の分類体系は本村 (2026) に準拠した。色彩の表記は財団法人日本色彩研究所 (1988) の系統色名に準拠した。本報告で使用した標本は東京大学総合研究博物館動物部門 (ZUMT) に登録した。なお、神奈川県立生命の星・地球博物館における資料番号はデータベース上では冒頭にゼロが付加された7桁の数字が使用されているが、本稿では本質的な有効数字で表記した。

タカサゴイシモチ科 Ambassidae

Ambassis buruensis Bleeker, 1856

ヒメタカサゴイシモチ (Figs. 1A, 2A)

標本 ZUMT 72119, 体長 51.7 mm, 宮古島, 崎田川河口域, 水深 1 m, 2025 年 9 月 3 日, 永井亮羽・木部琥太郎

採集。

同定 本標本は背鰭前方鱗数が 11 であること, 縦列鱗数が 26 であること, 鰓耙数が 9 + 26 であること, 側線が途中で中断し, 不完全であること, 主上顎骨後縁が眼前縁の直下を越えないこと, 眼上骨隆起の棘が 1 本であること, 頬部の横列鱗が 2 列からなること, 鼻棘を有すること, 間鰓蓋骨隅角部下縁が平滑であること, 最大体高が体長の 35.5% であること, 第 1 背鰭高が体長の 24.8% であること, および尾鰭後縁が黒いことなどの特徴が Allen and Burgess (1990), Allen (1999), および吉郷 (2024) の示したヒメタカサゴイシモチ *Ambassis buruensis* の特徴と一致したため, 本種に同定された。

分布 本種は日本, 台湾, フィリピン, インドネシア, およびパプアニューギニアなど東インド洋から西太平洋にかけて分布し (Weber and de Beaufort, 1929; Allen and Burgess, 1990; Allen, 1999; Fricke et al., 2014; 周ほか, 2020; Jamandre, 2023; 吉郷, 2024), 国内では大隅諸島 (種子島, 屋久島), 沖縄諸島 (沖縄島, 久米島), および八重山諸島 (石垣島, 西表島, 与那国島) から記録されていた (吉郷, 2000, 2007, 2014, 2024; 富森ほか, 2020)。本研究によって宮古諸島宮古島から新たに本種が記録された。

Ambassis interrupta Bleeker, 1853

ナンヨウタカサゴイシモチ (Fig. 1B)

標本 ZUMT 72105, 体長 20.9 mm, 宮古島, 入江湾に

流入する河川（名称不明）、水深 1 m、2025 年 9 月 2 日、高橋麟太郎・木部琥太郎・吉本亘成採集。

同定 本標本は背鰭前方鱗数が 13 であること、縦列鱗数が 25 であること、側線が途中で中断されること、頬部の横列鱗が 2 列からなること、眼上骨隆起が 1 棘を有すること、鼻棘を有すること、間鰓蓋骨下縁が鋸歯状であること、第 1 背鰭高が体長の 38.6% で第 2 棘が第 3 棘よりも高いこと、最大体高が体長の 39.9% であること、および腹鰭第 1 棘と第 1 軟条間の鰭膜先端部が白くなることなどの特徴が Allen and Burgess (1990) と Allen (1999) の示した *Ambassis interruptus*、および吉郷 (2024) の示したナンヨウタカサゴイシモチ *A. interrupta* の特徴に一致したため本種に同定された。

分布 本種は日本、フィリピン、マレーシア（マレー半島東岸）、インドネシア、パプアニューギニア、バヌアツ、ニューカレドニア、オーストラリア、シンガポール、およびアンダマン海など東インド洋から西太平洋にかけて分布し（Weber and de Beaufort, 1929; Fraser-Brunner, 1954; Allen and Burgess, 1990; Allen, 1999; Shibukawa, 2009, 2011; Koeda, 2017a; Pusey et al., 2017; Jamandre, 2023; 吉郷, 2024）、国内では八重山諸島の石垣島、西表島、および与那国島から標本に基づく確実な記録があった（瀬能・鈴木, 1980; 鈴木ほか, 1982; 吉郷, 2000, 2014, 2024）。本研究によって宮古諸島宮古島から新たに本種が記録された。なお、四宮・池 (1992) と鳥居ほか (2011) は奄美大島と沖縄島からそれぞれ本種を報告した。しかし、吉郷 (2024) はこれらがいずれも目録的な記録で、標本が確認できないとして奄美大島と沖縄島を本種の分布情報から除外した。それにしたがって、本研究でも奄美大島と沖縄島は本種の記録地として扱わなかった。

Ambassis miops Günther, 1871

セスジタカサゴイシモチ (Figs. 1C, 2B)

標本 ZUMT 72120, 体長 33.0 mm, 宮古島, 崎田川河口域, 水深 1 m, 2025 年 9 月 3 日, 永井亮羽・木部琥太郎採集。

同定 本標本は背鰭前方鱗数が 15 であること、縦列鱗数が 25 であること、鰓耙数が 5 + 19 であること、眼上骨隆起の棘が 1 本であること、頬部の横列鱗が 2 列からなること、鼻棘を有すること、間鰓蓋骨隅角部下縁が平滑であること、胸鰭鰭条数が 14 であること、最大体高が体長の 36.0% であること、および尾鰭が黒くなることなどの特徴が Allen and Burgess (1990), Allen (1999), および吉郷 (2024) の示したセスジタカサゴイシモチ *Ambassis miops* の特徴と一致したため、本種に同定された。

備考 本種は日本、台湾、フィリピン、インドネシ

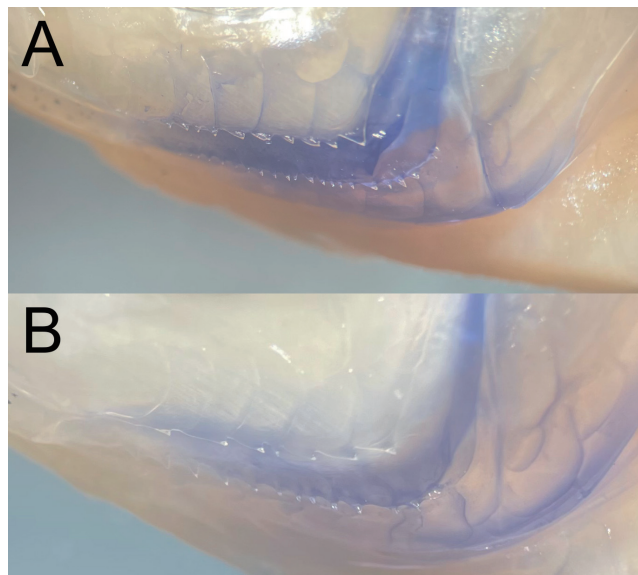


Fig. 2. Enlarged view of preopercular ridges of preserved specimens of two species of *Ambassis* (temporally stained with cyanine blue). A: *Ambassis buruensis*, ZUMT 72119, 51.7 mm SL; B: *Ambassis miops*, ZUMT 72120, 33.0 mm SL.

ア、パプアニューギニア、オーストラリア、ニューカレドニア、クック諸島ラロトンガ島、フィジー、サモア、およびインドなどインド洋から西太平洋にかけて分布し（Weber and de Beaufort, 1929; Allen and Burgess, 1990; Allen, 1999; Koeda, 2017b; 周ほか, 2020; Jamandre, 2023; 吉郷, 2024）、国内では兵庫県淡路島、和歌山県、高知県、宮崎県、鹿児島県薩摩半島、大隅諸島（種子島、屋久島、口永良部島）、奄美群島（奄美大島）、沖縄諸島（沖縄島、久米島）、および八重山諸島（石垣島、西表島、与那国島）から記録されていた（Snyder, 1912; 瀬能・鈴木, 1980, 1981; 林ほか, 1981; 鈴木ほか, 1982; 吉郷, 2000, 2007, 2014, 2024; Motomura et al., 2010; Iwatsuki et al., 2017; 岩坪ほか, 2017; 木村ほか, 2017; 富森ほか, 2020; 岡村ほか, 2023）。

なお、立原ほか (2002) は宮古島のマングローブ域に生息する魚類目録にセスジタカサゴイシモチを含めた。本種は吉郷 (2024) が日本産タカサゴイシモチ属魚類の分類学的整理を行う以前は、同属のヒメタカサゴイシモチと混同されてきた経緯があるが（吉郷, 2024）、立原ほか (2002) は目録的な報告であり、彼らが宮古島から報告したセスジタカサゴイシモチがいずれの種に該当するかは不明である。そのため、本研究は宮古島におけるセスジタカサゴイシモチの標本に基づく確かな記録となる。

セスジタカサゴイシモチは同属のヒメタカサゴイシモチと形態が酷似しており、両種は混同されることがある（吉郷, 2024）。従来、両種は前鰓蓋骨隆起下縁について前者は弱い鋸歯状で角部に鋭い 1 棘を有するのに対し、後者は明瞭な鋸歯状であることで識別可能とされていたが（林, 2013; 富森ほか, 2020）、富森ほか (2020) は両種ともに



Fig. 3. *Amblygobius esakiae* (A: ZUMT 72161, 37.6 mm SL) and *Amblygobius* sp. A sensu Suzuki et al. (2004) (B: ZUMT 72160, 38.6 mm SL) collected from Shimoji Island, Miyako Islands, immediately after fixation.

隅角部に大きな1棘を有することを報告し、識別形質としての有効性に疑義を呈した。本研究で観察した宮古島産標本においても、鋸歯状突起は、細部における形状の違いがあるものの、両種の間で明確な差異は見出されなかった (Fig. 2)。なお、セスジタカサゴイシモチは鰓耙数が5-9+16-22であるのに対して、ヒメタカサゴイシモチは7-12+22-29とより多いことから識別可能である (富森ほか, 2020; 吉郷, 2024)。

ベラ科 Labridae

Epibulus insidiator (Pallas, 1770)

ギチベラ (Fig. 1D)

標本 ZUMT 72101, 体長 22.7 mm, 伊良部島, 佐和田漁港, 2025年9月2日, 尾山大知・小田英次郎・永井亮羽・木部琥太郎採集。

同定 本標本は口を著しく伸長させることができること, 前鰓蓋骨後縁が円滑であること, 背鰭棘数が9であること, 側線が体側後部にて中断していること, 側線有孔鱗数が17+7であること, および尾鰭分枝軟条数が10であることなどの特徴が島田 (2013) の示したギチベラと一致したため本種に同定された。さらに, 体色が暗色であるこ

と, 眼を中心にした放射状の白色線を有すること, 体側に4白色横帯を有すること, および背鰭と臀鰭に3小白斑を有することなどの色彩的特徴が西山・本村 (2012) と加藤 (2016) の示した本種の幼魚の特徴とよく一致した。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布し (島田, 2013), 国内では伊豆諸島 (八丈島), 静岡県, 和歌山県, 愛媛県, 鹿児島県薩摩半島, 大隅諸島 (種子島, 屋久島, 口永良部島), 奄美群島 (奄美大島, 徳之島, 与論島), 沖縄諸島 (沖縄島, 久米島, 伊江島), 宮古諸島 (多良間島, 下地島, 伊良部島, 宮古島), 八重山諸島 (石垣島, 西表島, 与那国島), および大東諸島 (南大東島) から記録されていた (福田・御前, 1992; 吉郷, 2004; Senou et al., 2006, 2007; 高木ほか, 2010; Motomura et al., 2010; 西山・本村, 2012; 島田, 2013; 加藤, 2016; Koeda et al., 2016; 福井, 2018; Mochida and Motomura, 2018; 立原, 2019a, 2020a; Inoue et al., 2020; 田代・古橋, 2022; Motomura, 2023; 阿部ほか, 2024; Kadota et al., 2024; 犬塚・嘉藤, 2024)。

本種の宮古諸島 (多良間島, 下地島, 伊良部島, 宮古島) における記録は, これまで写真および標本に基づいていない目録形式に基づく記録のみであった (Senou et al., 2007; 立原, 2019a, 2020a)。したがって, 本記録は標本に基づく宮古諸島からの初記録である。

ハゼ科 Gobiidae

Amblygobius esakiae (Herre, 1939)

エサキサラサハゼ (Figs. 3A, 4; Table 1)

標本 ZUMT 72161, 体長 37.6 mm, 下地島, 入江水道, 水深 0.5 m, 2025 年 9 月 4 日, 永井亮羽・今田明生・吉本亘成・木部琥太郎採集。

記載 計数・計測値を Table 1 に示す。体は前後にやや細長く, 側扁する。吻端は丸みを帯びる。眼はやや大きく, 頭部の前背面に位置する。眼の上縁は頭部背縁を超えない。両眼間隔は狭い。口裂は端位で, 体軸に対して口角から約 35 度上方へ斜行する。上顎前端よりも下顎前端がわずかに突出する。上顎と下顎の後端は眼中央の直下まで達する。上唇上縁は窪む。前鼻孔は眼前方に位置し, 鼻管の先端に開孔する。鼻管前端は吻端を越えない。後鼻孔は鼻管基部と眼の間に開孔する。鰓孔は主鰓蓋骨下方から胸鰭基底上端の前方にかけて開孔する。

第 1 背鰭は平行四辺形に近く, 第 2 背鰭よりわずかに低い。第 1 背鰭起部は腹鰭起部直上よりも後方に位置し, 第 1 背鰭と第 2 背鰭の鰭膜はつながらないが, 両者の基底は連続する。第 1 背鰭は緩やかに曲線を描き, 第 2 背鰭は上縁が直線である。臀鰭起部は肛門の直後に位置し, 臀鰭

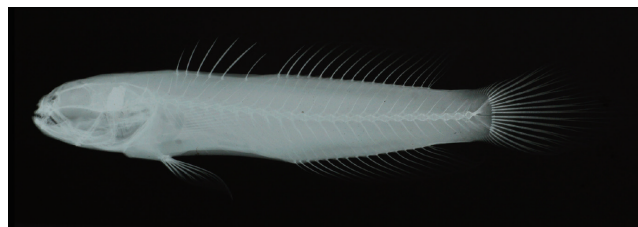


Fig. 4. Radiograph of preserved specimen of *Amblygobius esakiae* (same individual as Fig. 3A, image registered as KPM-NR 292002E).

外縁はゆるく弧を描く。胸鰭基底は第 1 背鰭起部とほぼ同位で, 胸鰭後端は第 2 背鰭起部直下に達する。胸鰭後端は丸みを帯びる。腹鰭はやや小さく, 左右が結合し吸盤状となる。尾鰭は菱形で先端が尖る。

色彩 生鮮時 (Fig. 3A) — 頭部から躯幹部にかけての地色は灰みの白色で, 躯幹部の腹側にかけて薄い黄色となる。体側には体軸と並行ににぶいピンクの細い 2 縦線が走る。項部から背鰭前方部にかけてさえた紫みの赤の点列がある。眼前縁から上顎前端にかけてこい紫みの赤の縦帯が走り, その上端は前鼻管基部で下端は上顎の眼下縁を越えないまで広がる。第 1・第 2 背鰭は半透明で明るい赤色の 3 縦線が走る。臀鰭は躯幹部に隣接した基部に明るい赤色の 1 縦帯が走る。胸鰭は白色半透明。腹鰭は黄みの白色。尾鰭は中心に躯幹部の縦線と連続した体軸に並行なさえた紫みの赤の縦線が走り, 周縁はさえた紫みの赤で縁取られる。

分布 本種は紅海と西太平洋の日本, フィリピン, パラオ, インドネシア (バリ島), およびパプアニューギニアに分布する (Herre, 1939; 渋川ほか, 2011; 明仁ほか, 2013; 林・白鳥, 2013; Fricke et al., 2014; Allen and Erdmann, 2016; Bogorodsky and Goren, 2023)。国内では八重山諸島西表島から標本ならびに水中写真に基づく記録があるほか (渋川ほか, 2011; 鈴木, 2021), 奄美群島の奄美大島でも本種が撮影されている (鈴木, 2021)。本研究によって宮古諸島下地島から新たに本種が記録された。

採集状況 本種は入江水道にて, 干潮時に水深約 0.5 m の軟泥底から採集された。同所ではブダイ科未同定属未同定種 Scaridae, indet. gen. and sp. (ZUMT 72135, 体長 27.9 mm; 幼魚のため未同定), ハナビヌメリ *Paradiplogrammus enneactis* (Bleeker, 1879) (2 個体, ZUMT 72141, 72162, 体長 22.8–24.8 mm), ホホグロスジハゼ *Acentrogobius suluensis* (Herre, 1927) (ZUMT 72167, 体長 27.1 mm), ホホベニサラサハゼ (後述), オキナワハゼ属未同定種 *Callogobius* sp. (ZUMT 72138, 体長 23.4 mm), トサカハゼ *Cristatogobius lophius* (Herre, 1927) (3 個体, ZUMT 72169–72171, 体長 17.9–22.1 mm), ハスジマハゼ *Cryptocentroides insignis* (Seale, 1910) (ZUMT 72168, 体長 23.7 mm), オイランハ

Table 1. Counts and measurements of *Amblygobius esakiae* from Japan.

Locality	This study	Shibukawa et al. (2011)
	ZUMT 72161 Shimoji I.	<i>n</i> = 5 Iriomote I.
Standard length (SL; mm)	37.6	24.9–48.6
Counts		
Dorsal-fin rays	VI–I, 15	VI–I, 15
Anal-fin rays	I, 15	I, 15
Pectoral-fin rays	20	19–20
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5
Measurements as % of SL		
Head length	25.6	26.5–29.5
Head width	14.4	14.3–15.4
Head depth	17.5	16.9–17.9
Snout length	8.0	7.5–8.3
Eye diameter	6.7	6.6–8.1
Interorbital width	3.9	2.4–3.5
Jaw length	11.2	10.5–11.4
Body depth	18.2	17.4–18.1
Pre-dorsal-fin length	32.2	32.4–33.8
Pre-pelvic-fin length	28.5	54.8–55.2
Pre-anal-fin length	57.5	57.1–59.5
Caudal-peduncle length	14.1	14.2–15.1
Caudal-peduncle depth	11.5	10.6–11.2
First dorsal-fin base length	23.2	22.0–23.7
Second dorsal-fin base length	34.5	32.9–34.7
Anal-fin base length	32.0	28.5–31.0
Pectoral-fin length	22.7	21.1–22.8
Pelvic-fin length	18.7	18.2–21.7
Caudal-fin length	33.8	31.1–34.6

ゼ *Cryptocentrus melanopus* (Bleeker, 1860) (ZUMT 72139, 体長 23.4 mm), マダラハゼ *Macrodonotogobius wilburi* Herre, 1936 (ZUMT 72140, 体長 28.0 mm), ケシヨウハゼ *Oplopomus oplopomus* (Valenciennes, 1837) (ZUMT 72159, 体長 32.2 mm), ミナミサルハゼ *Oxyurichthys lonchotus* (Jenkins, 1903) (3 個体, ZUMT 72164–72161, 体長 30.5–35.9 mm), およびハゼ科の一種 10 (後述) なども確認された。

同定 本標本は第 2 背鰭・臀鰭軟条数が 15 であること, 第 1 背鰭の棘が伸長しないこと, 第 1 背鰭の形が平行四辺形に近いこと, 吻は突出せず丸みを帯びること, 背鰭前方鱗をもたないこと, 尾鰭が長く尖形であること, 体側に黒色縦線がなく, 頭部と体側に桃色の縦線を有すること, 尾鰭基底に橙色斑がないこと, および吻部の暗色部が幅広く, 前鼻管基部よりはるか下方まで達することなどが明仁ほか (2013) と鈴木 (2021) の示したエサキササハゼの特徴と一致したため, 本種に同定された。

備考 分布の項で述べたとおり, 本種は国内ではこれまでに西表島と奄美大島からのみ記録されていた。したがって, 本研究で得られた下地島産の標本は本種の宮古諸島からの初記録となる。また, 国内における記録のうち, 標本に基づく報告は西表島産の 5 標本を報告した渋川ほか (2011) のみであった。そのため, 本研究は本種の標本に基づく報告としては国内 2 例目となる。

本種は同属のホホベニサラサハゼとよく似るが, 背鰭・臀鰭軟条数が 15–16 であること (ホホベニサラサハゼでは通常 14), 尾鰭が長く, 尖形であること (丸みを帯び, 若干尖る), 吻部の暗色部が幅広く, 前鼻管基部よりも広いこと (明るい赤色に近く, 基部に留まる), および体側に細いにぶいピンクの 2 縦線が走ることなどにより識別可能である (渋川ほか, 2011; 鈴木, 2021; 本研究)。

なお, 本研究で観察した下地島産標本と渋川ほか (2011) が記載した西表島産標本の計測値を比較したところ, 腹鰭前長に大きな差異がみられた。渋川ほか (2011) は腹鰭前長を腹鰭棘基部前縁と吻端との間の直線距離と定義し, 西表島産標本では体長の 54.8–55.2% であったと述べているが, これに準拠して計測したところ, 下地島産標本の腹鰭前長は体長の 28.5% であった (Table 1)。この差異は渋川ほか (2011) が自身で述べた方法にしたがっていないか, 誤った場所を計測したことに起因すると考えられる。

Amblygobius sp. A sensu Suzuki et al. (2004)

ホホベニサラサハゼ (Fig. 3B)

標本 ZUMT 72160, 体長 38.6 mm, 下地島, 入江水道, 水深 0.5 m, 2025 年 9 月 4 日, 永井亮羽・今田明生・吉本亘成・木部琥太郎採集。

同定 本標本は第 2 背鰭・臀鰭軟条数が 14 であること, 第 1 背鰭の棘が伸長しないこと, 吻が突出せず丸みを帯びること, 背鰭前方鱗をもたないこと, 体側に黒色縦線をもたず, 頭部と体側に桃色縦線を有すること, 尾鰭基底に橙色斑はないこと, および吻の暗色線は細く, 下縁が前鼻管基部下端に接することなどの特徴が明仁ほか (2013) と鈴木 (2021) が示したホホベニサラサハゼと一致したため, 本種に同定された。

分布 本種は日本, 台湾, タイ湾, ミクロネシア, インドネシア, およびオーストラリアに分布し (鈴木, 2004, 2021; 明仁ほか, 2013), 国内では伊豆諸島 (八丈島), 小笠原諸島 (父島), 和歌山県, 鹿児島県薩摩半島, 大隅諸島 (種子島, 屋久島, 口永良部島), 奄美群島 (奄美大島, 沖永良部島), 沖縄諸島 (沖縄島, 伊江島), 宮古諸島 (宮古島, 伊良部島, 池間島), および八重山諸島 (石垣島, 西表島, 与那国島) から記録されていた (鈴木, 2004, 2021; 吉郷ほか, 2005; Senou et al., 2006, 2007; Motomura et al., 2010; 宮古島市総合博物館, 2013; 明仁ほか, 2013; 佐々木ほか, 2014; 吉郷, 2014; Koeda et al., 2016; 木村ほか, 2017; Motomura and Harazaki, 2017; Nakae et al., 2018; 萩原, 2019; 赤池ほか, 2021; Motomura, 2023; 佐藤ほか, 2023)。このうち宮古諸島では, 宮古島から標本に基づく報告がある (宮古島市総合博物館, 2013) ほか, 伊良部島と池間島から写真記録がある (Senou et al., 2007)。本研究によって標本に基づき下地島からも本種が記録された。

Favonigobius sp. A sensu Momose (2024)

ヒメハゼ属の一種 A (Fig. 5A)

標本 ZUMT 72111, 雄, 体長 21.0 mm, ZUMT 72113, 雄, 体長 21.7 mm, 伊良部島, 入江水道, 水深 0.1 m, 2025 年 9 月 3 日, 尾山大知・高橋麟太郎・今田明生・吉本亘成採集。

同定 本標本は背鰭・臀鰭軟条数が 9 であること, 背鰭前方鱗数が 7–8 であること, 頭部が大きく, 体が太短いこと, 背鰭棘が伸長しないこと, 腹部が白色で, 頭部は黒くならないこと, 尾柄の黒色斑の後端が二又しないこと, 尾鰭上部に黒色斑をもたないこと, 対側の 4 黒色斑が楕円形であることなどの特徴が百瀬 (2024) の示したヒメハゼ属の一種 A の特徴と一致したため, 本種に同定された。

分布 本種はこれまでに千葉県, 鹿児島県本土, 大隅諸島 (種子島), 奄美群島 (加計呂麻島, 喜界島), 沖縄諸島 (沖縄島), および八重山諸島 (石垣島, 西表島, 与那国島) から記録されていた (林・伊藤, 1978; 吉郷, 2014; 鈴木, 2021; 百瀬, 2022, 2024; Motomura, 2023; 古橋ほか, 2024; 大井ほか, 2025; 中村ほか, 2025)。本研究によって宮古諸島伊良部島から新たに本種が記録された。

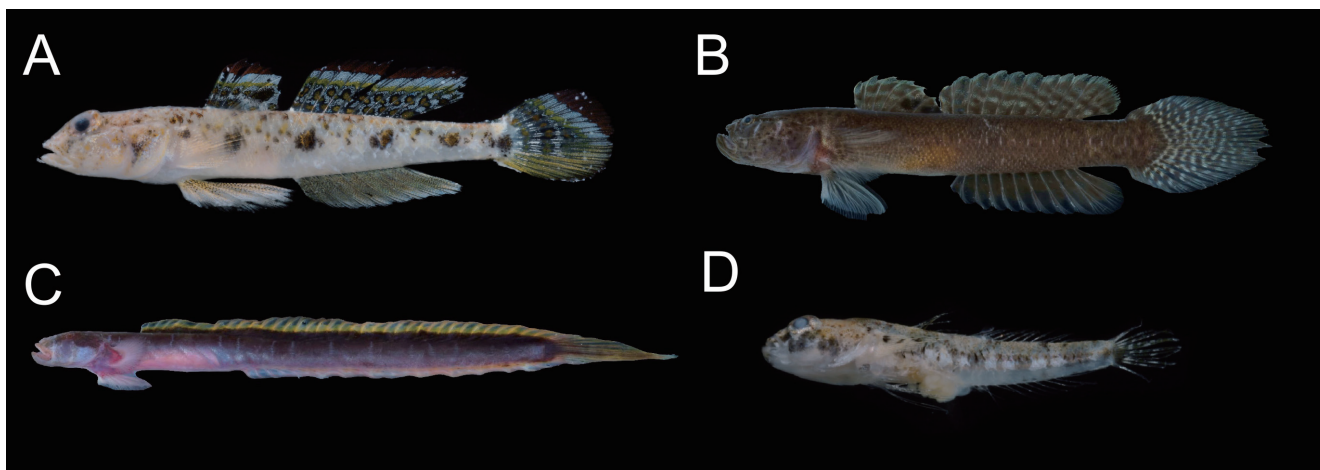


Fig. 5. Fishes collected from the Miyako Islands, immediately after fixation. A: *Favonigobius* sp. A sensu Momose (2024), ZUMT 72111, male, 21.0 mm SL; B: *Mangarinus waterousi*, ZUMT 72104, 43.1 mm SL; C: *Trypauchenopsis limicola*, ZUMT 72163, 89.3 mm SL; D: Gobiidae, indet. gen. and sp. 10 sensu Suzuki (2004), ZUMT 72137, 9.9 mm SL.

Mangarinus waterousi (Herre, 1943)

ウチワハゼ (Fig. 5B)

標本 ZUMT 72104, 体長 43.1 mm, 宮古島, 入江湾に流入する河川 (名称不明), 水深 0.5 m, 2025 年 9 月 2 日, 高橋麟太郎・木部暁太郎・吉本亘成採集.

同定 本標本は眼の前端から上顎前端に達する縦列皮褶があること, 頬に 2 本の隆起縦線があること, 頬に横方向の隆起線がないこと, 体後半の体側鱗は, 前方のものより大きいこと, および第 1 背鰭後部に黒色斑があることなどの特徴が明仁ほか (2013) の示したウチワハゼの特徴と一致したため, 本種に同定された.

分布 本種は日本, 台湾, フィリピン, フィジー, パラオ, マレーシア, インドネシア, およびインドなどの東インド洋から西太平洋にかけて分布し (明仁親王・目黒, 1977; 明仁ほか, 2013; Tan et al., 2015; Ragul et al., 2022; Li and Chen, 2025), 国内では和歌山県, 奄美群島 (奄美大島, 徳之島), 沖縄諸島 (沖縄島, 久米島), および八重山諸島 (石垣島, 西表島) から記録されていた (明仁親王・目黒, 1977; 林ほか, 1992; Tachihara et al., 2003; 吉郷, 2007; 神田ほか, 2009; 明仁ほか, 2013; 吉郷, 2014; Nakae et al., 2018; 鎗田ほか, 2021; 鈴木, 2021; 和田ほか, 2021). 本研究によって宮古諸島宮古島から新たに本種が記録された.

Trypauchenopsis limicola (Smith, 1964)

ホシドメヒゲワラスボ (Fig. 5C)

標本 ZUMT 72163, 体長 89.3 mm, 宮古島, 入江湾に流入する河川 (名称不明), 水深 0.5 m, 2025 年 9 月 2 日, 永井亮羽・木部暁太郎採集.

同定 本標本は鱗がないこと, 頭部の皮褶が発達しな

いこと, 下顎に長いヒゲ状皮弁をもたず, 頭部に短いヒゲ状突起が散在すること, 背鰭と臀鰭が尾鰭と連続すること, および尾鰭が長く, 頭長より長いことなどの特徴が Shibukawa and Murdy (2012) と明仁ほか (2013) の示したヒゲワラスボ属 *Trypauchenopsis* Volz, 1903 の特徴と一致した. さらに, 胸鰭軟条数が 18 であること, 背鰭鰭条数が 6 棘 27 軟条であること, および臀鰭軟条数が 28 であることなどの特徴が Maeda et al. (2022) の示したホシドメヒゲワラスボ *Trypauchenopsis limicola* の特徴と一致したため, 本種に同定された.

分布 本種は日本からマリアナ諸島にかけて分布し (Maeda et al., 2022), 国内では静岡県, 大隅諸島 (屋久島), 沖縄諸島 (沖縄島), および八重山諸島 (石垣島) から確かな記録がある (Maeda et al., 2022; 古橋ほか, 2023; 百瀬・尾山, 2026).

Maeda et al. (2022) が本種とマバラヒゲワラスボ *Trypauchenopsis intermedia* Volz, 1903 を識別する以前, 両種は混同され「ヒゲワラスボ」として扱われてきた. 琉球列島産の「ヒゲワラスボ」について, Maeda et al. (2022) は沖縄島と石垣島産の標本を検討し, 両島に 2 種がいずれも出現することを明らかにしたが, 他の産地からの記録は再検討がなされていなかった. 宮古諸島では宮古島と伊良部島から「ヒゲワラスボ」の報告があるが (立原ほか, 2002; Tachihara et al., 2003; 吉郷ほか, 2005), これらがマバラヒゲワラスボとホシドメヒゲワラスボのどちらに該当するのかわからない. そのため, 本研究は宮古島におけるホシドメヒゲワラスボの確かな記録となる.

Gobiidae, indet. gen. and sp. 10 sensu Suzuki (2004)

ハゼ科の一種 10 (Fig. 5D)

標本 ZUMT 72136, 体長 9.2 mm, ZUMT 72137, 体長 9.9

mm, 伊良部島, 入江水道, 水深 0.5 m, 2025 年 9 月 4 日, 永井亮羽・木部琥太郎・今田明生・吉本亘成.

同定 本標本は背鰭と臀鰭の軟条数がそれぞれ 10 と同数であること, 頭部が大きいこと, 腹鰭が大きいこと, および腹鰭膜蓋後縁が鋸歯状であることが鈴木(2021), 百瀬・尾山(2024), および大井ほか(2025)の示したハゼ科の一種 10 と一致したため, 本種に同定された.

分布 本種はこれまでに奄美群島(奄美大島, 喜界島), 沖縄諸島(沖縄島), および八重山諸島(石垣島, 西表島)から記録されていた(鈴木, 2004, 2021; 百瀬・尾山, 2024; 大井ほか, 2025). なお, 宮古島市総合博物館(2013)は同館の収蔵資料目録に宮古島川満海岸産の「ハゼ科未記載種 *Gobiidae* sp.」を含めているが, 同標本の形態などに関する詳細は述べられておらず, この標本が本種に該当するか否かは不明である. 本研究によって宮古諸島伊良部島から新たに本種が標本に基づき記録された.

謝 辞

東京大学総合研究博物館の藍澤正宏氏には標本の登録ならびに観察に際し, 多大なご助言・ご協力を賜った. 神奈川県立生命の星・地球博物館の和田英敏博士には軟 X 写真の撮影にご協力いただいた. 東京大学総合研究博物館の百瀬 樹氏にはヒメハゼ属の同定に際し, ご助言を賜った. 株式会社環境アセスメントセンターの北原佳郎氏, 串本海中公園センターの大西 遼氏, および鹿児島大学水産学部の中村亮太氏には文献の収集にご協力いただいた. *Ichthy* 編集委員の古橋龍星氏ならびに匿名の査読者には原稿の改訂に際して有益なご助言を賜った. この場を借りて厚く御礼申し上げる.

引用文献

- 阿部健志郎・清和凌河・坂井陽一・古橋龍星・本村浩之. 2024. 口永良部島から得られた南限更新記録 2 種を含む魚類 57 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 45: 1–14.
- 赤池貴大・藤原恭司・上原航知・松岡 翠・藤井琢磨・ジョン ビョル・松本達也・中川龍一・緒方僚輝・是枝伶旺・古橋龍星・望月健太郎・飯野友香・出羽優風・石原祥太郎・本村浩之. 2021. 標本に基づく琉球列島初記録の魚類 66 種, およびサザンプラティフィッシュの島内における新産地とカワアナゴ属の一種の形態学的特徴. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 13: 18–35.
- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目, pp. 1347–1608, 2109–2211. 中坊徹次(編)日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 明仁親王・目黒勝介. 1977. 沖縄県石垣島で採集された日本初記録のウチワハゼ(新称) *Mangarinus waterousi*. *魚類学雑誌*, 24: 223–226.
- Allen, G. R. 1999. Ambassidae, pp. 2433–2435. In Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of Western Central Pacific. Vol. 4. Bony fishes part 2 (Mugilidae to Carangidae)*. FAO, Rome.
- Allen, G. R. and W. E. Burgess. 1990. A review of the glassfishes (Chandidae) of Australia and New Guinea. *Records of the Western Australian Museum*, 34: 139–206.
- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2016. Descriptions of two new gobies (*Gobiidae: Amblygobius*) from the tropical western Pacific Ocean. *Journal of the Ocean Science Foundation*, 24: 10–23.
- Bogorodsky S. V. and M. Goren. 2023. An updated checklist of the Red Sea gobioid species (Teleostei: Gobiiformes), with four new records. *Zoology in the Middle East*, 69: 123–163.
- Fricke, R., G. R. Allen, S. Andréfouët, W. Chen, M. A. Hamel, P. Laboute, R. Mana, T. H. Hui and D. Uyeno. 2014. Checklist of the marine and estuarine fishes of Madang District, Papua New Guinea, western Pacific Ocean, with 820 new records. *Zootaxa*, 3832: 1–247.
- 福田照雄・御前 洋. 1992. 串本海中公園センターで記録された魚類一覧 (1). 串本海中マリンパビリオン, 21: 26–29.
- 福井美乃. 2018. ベラ科, pp. 253–278. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編)奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・横須賀市自然・人文博物館, 横須賀・神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原・国立科学博物館, つくば.
- 古橋龍星・赤池貴大・是枝伶旺・橋本慎太郎・樋口聡文・金井聖弥・潮上太郎・中村亮太・清水直人・本村浩之. 2024. 与那国島から得られた魚類 43 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 47: 9–20.
- 古橋龍星・是枝伶旺・本村浩之. 2023. 大隅諸島の種子島と屋久島から得られた淡水・汽水性魚類 15 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 29: 20–33.
- 萩原清司. 2019. ハゼ科, pp. 335–374. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編)奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 林 公義. 2013. タカサゴイシモチ科, pp. 744–745, 1956–1957. 中坊徹次(編)日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・青木良輔・伊藤 孝. 1981. 石垣島, 西表島の淡水魚—河口水域を中心として—. 横須賀市博物館館報, 27: 16–23.
- 林 公義・伊藤 孝. 1978. 南西諸島のハゼ科魚類について (1). 横須賀市博物館研究報告 (自然科学), 24: 59–82, pls. 10–21.
- 林 公義・伊藤 孝・林 弘章・萩原清司・木村喜芳. 1992. 奄美大島の陸水性魚類相と生物地理学的特性. 横須賀市博物館研究報告 (自然科学), 40: 45–63.
- 林 公義・白鳥岳朋. 2013. ハゼガイドブック. 改訂版. TBSブリタニカ, 東京. 223 pp.
- Herre, A. W. C. T. 1939. On a collection of fishes from Nanyo, the Japanese mandated islands. *Annotationes zoologicae Japonenses*, 18: 298–307.
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 1947. Fishes of the Great Lakes region. *Bulletin of the Cranbrook Institute of Science*, 26: i–xi + 1–186.
- Inoue, H., A. Mizutani, K. Nanjo, K. Tsutsumi and H. Kohno. 2020. Fish assemblage structure response to seagrass bed degradation due to overgrazing by the green sea turtle *Chelonia mydas* at Iriomote Island, southern Japan. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-020-00775-1 (Sept. 2020), 68: 111–125 (Jan. 2021).
- 犬塚敦己・嘉藤恭太. 2024. 駿河湾から得られた静岡県初記録のギチベラ *Epibulus insidiator*. *ニッチェ・ライフ*, 12: 101–102.
- 岩坪洗樹・橋口 亘・本村浩之. 2017. 九州初記録ならびに分布北限記録更新のセスジカサゴイシモチ. *Nature of Kagoshima*, 43: 101–103.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27–55.
- Jamandre, B. W. 2023. Freshwater fishes of the Philippines: a provisional checklist. *Zootaxa*, 5301: 151–181.
- Kadota, T., N. Shimizu, M. Tsuboi, B. Barros, Y. Sakai, H. Hashimoto and K. Gushima. 2024. Change in the subtidal reef fish assemblage at Kuchierabu-jima Island, southern Japan, between 1972 and 2005. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-024-00963-3 (Mar. 2024), 72: 153–165 (Jan. 2025).
- 神田 猛・上原 聡・澁野拓郎. 2009. 八重山諸島石垣島の陸水魚類相. 宮崎大学農学部研究報告, 55: 13–24.
- 加藤昌一. 2016. ネイチャーウォッチングガイドブック ベラ & ブダイ. 誠文堂新光社, 東京. 319 pp.

- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯苔 健・小枝圭太 (編). 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- 北村嵩明. 2009. 地域の生物を生かした環境教育の実践 — 宮古島崎田川の水生生物相 (主に甲殻類, 魚類, 大型水性昆虫) を通して —. 沖縄生物教育研究会誌, 41: 23–30.
- Koeda, K. 2017a. *Ambassis interrupta*, p. 77. In Motomura, H., U. B. Alama, N. Muto, R. P. Babaran, and S. Ishikawa (eds.) Commercial and bycatch market fishes of Panay Island, Republic of the Philippines. The Kagoshima University Museum, Kagoshima, University of the Philippines Visayas, Iloilo, and Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.
- Koeda, K. 2017b. *Ambassis miops*, p. 78. In Motomura, H., U. B. Alama, N. Muto, R. P. Babaran, and S. Ishikawa (eds.) Commercial and bycatch market fishes of Panay Island, Republic of the Philippines. The Kagoshima University Museum, Kagoshima, University of the Philippines Visayas, Iloilo, and Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.
- 小枝圭太. 2022. タカサゴイシモチ科, p. 89. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada and T. Uchiyama. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. The Kagoshima University Museum, Kagoshima. 119 pp.
- Li, H.-E. and I.-S. Chen. 2025. First records of two brackish gobiid genera (Teleostei: Gobiidae) from Taiwan as their western Pacific distributional addenda. *Zootaxa*, 5738: 171–182.
- Maeda, K., N. Hanahara, M. Uehara and K. Tachihara. 2022. Larval study revealed diversity and life-history traits of crypto-benthic eel gobies. *Journal of Fish Biology*, doi: 10.1111/jfb.15209 (Sept. 2022), 101: 1411–1427 (Dec. 2022).
- 宮古島市総合博物館 (編). 2013. 宮古島市総合博物館収蔵資料目録 — 自然資料編一. 宮古島市総合博物館, 宮古島. 170 pp.
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 214 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 10: 1–80.
- 百瀬 樹. 2022. 奄美群島加計呂麻島から得られた日本初記録の *Hazeu ammophilus* サキンハゼ (新称) を含む同島初記録のハゼ科魚類 10 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 19: 8–18.
- 百瀬 樹. 2024. 本州から得られたヒメハゼ属魚類 4 種の記録とその識別形質についての検討. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 45: 19–45.
- 百瀬 樹・尾山大知. 2024. 房総半島から得られた暖水性魚類 8 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 49: 35–48.
- 百瀬 樹・尾山大知. 2026. 伊豆半島西岸から得られた静岡県初記録を含むハゼ亜目 4 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 65: 1–17.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250.
- 本村浩之. 2026. 日本産魚類全種目録: これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 38. [URL](https://doi.org/10.1111/jfb.15209) (16 Mar. 2026)
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183.
- Motomura, H., K. Kuriwa, E. Katayama, H. Senou, G. Ogihara, M. Meguro, M. Mtsunuma, Y. Takata, T. Yoshida, M. Yamashita, S. Kimura, H. Endo, A. Murase, Y. Iwatsuki, Y. Sakurai, S. Harazaki, K. Hidaka, H. Izumi, K. Matsuura. 2010. Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan, pp. 65–247. In Motomura, H. and K. Matsuura (eds.) *Fishes of Yaku-shima Island — A World Heritage island in the Osumi Group*, Kagoshima Prefecture, southern Japan. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Island, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361.
- 中村亮太・是枝侘旺・本村浩之. 2025. 鹿児島県本土から得られた九州沿岸初記録のヒメハゼ属の一種 A. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 58: 62–66.
- 西山一彦・本村浩之. 2012. 日本のペラ大図鑑. 東邦出版株式会社, 大阪. 302 pp.
- 大井真人・中村亮太・是枝侘旺・本村浩之. 2025. 奄美群島喜界島初記録のハゼ科魚類 9 種, およびハゼ科の一種 10 sensu Suzuki (2004) の形態的特徴. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 55: 23–29.
- 岡村恭平・津野義大・富山陽聖・遠藤広光. 2023. 高知県大月町から得られた北限を含む四国初記録の南方系通し回遊魚 4 種 (タニヨウジ, セスジタカサゴイシモチ, タネカワハゼ, アカボウズハゼ). *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 29: 1–8.
- Pusey, B. J., D. W. Burrows, M. J. Kennard, C. N. Perna, P. J. Unmack, Q. Allsop and M. P. Hammer. 2017. Freshwater fishes of northern Australia. *Zootaxa*, 4253: 1–104.
- Ragul, S., M. Subramaniyan, G. Mahadevan, A. Murugan and H. K. Larson. 2022. First distributional record of the goby *Mangarinus waterousi* (Perciformes: Gobiidae) from Vellar estuary, southeast India. *Cybius*, 45: 297–301.
- 佐々木哲朗・瀬能 宏・山田鉄也・内野啓道. 2014. 小笠原諸島鳥島および父島の海産魚類相. *小笠原研究*, 41: 13–39.
- 佐藤智水・山田守彦・ジョン ビョル・望月健太郎・松岡 翠・本村浩之. 2023. 薩摩半島から得られた九州あるいは鹿児島県本土初記録のハゼ亜目魚類 13 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 28: 12–21.
- Senou, H., Y. Kobayashi and N. Kobayashi. 2007. Coastal fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 36: 47–74.
- Senou, H., H. Kodato, T. Nomura and K. Yunokawa. 2006. Coastal fishes of Ie-jima island, the Ryukyu Islands, Okinawa, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 35: 67–92.
- 瀬能 宏・鈴木寿之. 1980. 八重山列島の淡水魚 (II). *南紀生物*, 22: 65–70.
- 瀬能 宏・鈴木寿之. 1981. 八重山列島の淡水魚 (V). *南紀生物*, 23: 81–86.
- Shibukawa, K. 2009. *Ambassidae*, pp. 78–80. In Kimura, S., U. Satapoomin and K. Matsuura (eds.) *Fishes of Andaman Sea, west coast of southern Thailand*. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- Shibukawa, K. 2011. *Ambassidae*, pp. 76–77. In Matsuura, M., H. Motomura, K. Matsuura, N. A. M. Shazili and M. A. Ambak (eds.) *Fishes of Terengganu, east coast of Malay Peninsula, Malaysia*. National Museum of Nature and Science, Tokyo, Universiti Malaysia Terengganu, Terengganu and Kagoshima University Museum, Kagoshima.
- Shibukawa, K. and E. O. Murdy. 2012. A redescription of the eel goby *Trypauchenopsis* (Gobiidae: Amblyopinae) with comments on relationships. *Copeia*, 2012: 527–534.
- 渋川浩一・鈴木寿之・瀬能 宏. 2011. 琉球列島から得られた日本初記録のハゼ科 3 種. *大阪市立自然史博物館研究報告*, 65: 25–38.
- 島田和彦. 2013. ペラ科, pp. 1088–1136, 2045–2056. 中坊徹次 (編) *日本産魚類検索 全種の同定*. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 四宮明彦・池 俊人. 1992. 奄美大島における陸水域の魚類相. *鹿児島大学水産学部紀要*, 41: 77–86.
- Snyder, J. O. 1912. Japanese shore fishes collected by the United States Bureau of Fisheries steamer "Albatross" expedition of 1906. *Proceedings of the United States National Museum*, 42: 399–450, pls. 51–61.
- 鈴木寿之. 2004. 各種(項目)の解説, pp. 22–512. 瀬能 宏・鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾 (編) 決定版 *日本のハゼ*. 平凡社, 東京.

- 鈴木寿之. 2021. 各種(項目)の解説, pp. 28–551. 瀬能 宏・鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾(編)新版 日本のハゼ. 平凡社, 東京.
- 鈴木寿之・道津喜衛・瀬能 宏. 1982. 八重山諸島の陸水性魚類相. 沖縄生物学会誌, 20: 17–23.
- 立原一憲. 2019a. 第2章 海域の生物, 第6節 魚類, pp. 181–206. 宮古市史編さん委員会(編)宮古島市史第三巻自然編 第I部(本編)みやこの自然. 宮古島市教育委員会, 宮古島.
- 立原一憲. 2019b. 第4章 陸域の生物, 第5節 淡水魚類, pp. 407–418. 宮古市史編さん委員会(編)宮古島市史第三巻自然編 第I部(本編)みやこの自然. 宮古島市教育委員会, 宮古島.
- 立原一憲. 2020a. 宮古諸島魚類目録(海域), pp. 199–210. 宮古市史編さん委員会(編)宮古島市史第三巻自然編 第I部 みやこの自然 別冊 宮古諸島生物目録. 宮古島市教育委員会, 宮古島.
- 立原一憲. 2020b. 宮古諸島魚類目録(陸域), p. 323. 宮古市史編さん委員会(編)宮古島市史第三巻自然編 第I部 みやこの自然 別冊 宮古諸島生物目録. 宮古島市教育委員会, 宮古島.
- 立原一憲・中尾耕平・徳永桂史・津波古優子. 2002. マングローブ水域の魚類相: 沖縄島慶佐次川のマングローブ水域に出現する魚類相, pp. 37–71. 内閣府政策統括官沖縄振興局(編)平成13年度内閣府委託調査研究: マングローブに関する調査報告書. 亜熱帯総合研究所, 沖縄.
- Tachihara, K., K. Nakao, K. Tokunaga, Y. Tshuhako, M. Takada and T. Shimose. 2003. Ichthyofauna in mangrove estuaries of the Okinawa, Miyako, Ishigaki and Iriomote Islands during August from 2000 to 2002. *Bulletin of the Society of Sea Water Science, Japan*, 57: 481–490.
- 高木基裕・平田智法・平田しおり・中田 親. 2010. えひめ愛南お魚図鑑. 総風社出版, 松山. 249 pp.
- Tan, H. H., B. W. Low, D. C. J. Yeo and K. K. P. Lim. 2015. An update to the Inland Fishes of Pulau Tioman, Malaysia. *Raffles Bulletin of Zoology*, 63: 555–563.
- 田代郷国・古橋龍星. 2022. ベラ科, pp. 194–213. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之(編)薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 冨森祐樹・井上祐太・松沼瑞樹. 2020. 標本に基づく分布北限を更新する大隈諸島からの *Ambassis buruensis* (タカサゴイシモチ科) と淡路島からのセスジタカサゴイシモチ *A. miops* の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 3: 56–64.
- 鳥居高志・塩根嗣理・加藤憲一・杉浦幸彦・黒川忠之・大野正博・大城朝一・新垣敏一. 2011. 河口閉塞による感潮域魚類相への影響. *応用生態工学*, 13: 123–139.
- 和田英敏・古橋龍星・山田守彦・藤井琢磨・吉田朋弘・Kunto Wibowo・荒木萌里・伊藤大介・赤池貴大・中川龍一・渋谷駿太・是枝伶旺・出羽優風・餅田 樹・本村浩之. 2021. 徳之島初記録の魚類 122 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 7: 35–52.
- Weber, M. and L. F. de Beaufort. 1929. The fishes of the Indo-Australian Archipelago. Vol. 5. E. J. Brill, Leiden. xiv + 458 pp.
- 鎗田めぐ・山下龍之丞・碧木健人・山川宇宙. 2021. 和歌山県で採集された北限記録のウチワハゼ. *南紀生物*, 63: 207–210.
- 吉郷英範. 2000. 与那国島(琉球列島)の陸水性魚類. 比和科学博物館研究報告, 39: 165–179.
- 吉郷英範. 2004. 南大東島で採集されたタイドプールと浅い潮下帯の魚類. 比和科学博物館研究報告, 43: 1–51.
- 吉郷英範. 2007. 琉球列島久米島の陸水性魚類. 比和科学博物館研究報告, 48: 25–51.
- 吉郷英範. 2014. 琉球列島産陸水性魚類相および文献目録. *Fauna Ryukyuana*, 9: 1–153.
- 吉郷英範. 2024. 日本産タカサゴイシモチ属魚類 *Ambassis* (棘鱗上目: タカサゴイシモチ科) の形態的特徴と性的二型. 比和科学博物館研究報告, 65: 65–87.
- 吉郷英範・市川真幸・中村慎吾. 2005. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録(IV). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, 5: 1–51.
- 財団法人日本色彩研究所(監). 1988. 改訂版 色名小事典. 日本色研事業株式会社, 東京. 90 pp.
- 周 銘泰・高 瑞卿・張 瑞宗・廖 竣. 2020. 台湾自然圖鑑 048. 臺灣淡水及河口魚蝦圖鑑. 晨星出版有限公司, 台中. 559 pp.